

I/Oすべてを仮想化する先進的な仮想化技術を実装した BladeFrame を積極展開

ITリソースのユーティリティ化を志向した仮想化技術がクローズアップされている。ガートナーのレポートで「他に類がない設計思想で、直接比較できるシステムはない」と評された、一歩先を行く仮想化技術を軸に事業展開するイージェネラの取組みを大木稔社長にうかがった。

真のユーティリティ・コンピューティング環境の実現を目指す

——先進的な仮想化技術を凝縮した BladeFrame が注目を集めていますが、貴社が目指す真のユーティリティ・コンピューティング環境とは、どのようなものですか。

大木 2000年3月、イージェネラは「利用者の立場からみた、理想的なサーバ環境を提供すること」を目的に創立されました。今日、企業の情報システム環境は、大規模化に伴う複雑性の増大に起因したコスト増、信頼性低下、ビジネスニーズに即応できない硬直性と、CPU性能の向上に伴うサーバ利用率の低下という2つの大きな課題を抱えています。この課題を解決するためには、使用可能なシステム資源（ITリソース）を効率的かつ動的に利用し、柔軟性・生産性を高めることが重要です。イージェネラは、独自の先進的な仮想化技術により、CPUやメモリ、ネットワークを共有し、必要に応じてそれらのITリソースを割当て可能にするオンデマンド・ユーティリティコンピューティングを実現します。イージェネラは、先進的な仮想化技術を実装したソフトウェア「PAN (Processing Area Network)」

マネージャを搭載したプラットフォームソリューション「BladeFrame」によって、ITインフラの機動性・柔軟性の改善、TCOの削減、複雑性の極少化、ITリソース（サーバ、ストレージ、ネットワーク）の有効利用、可用性の改善を実現します。

日本市場では大手銀行・証券会社がいち早く BladeFrame を採用

——日本法人の設立は2003年ですが、ビジネスの状況はいかがですか。

大木 日本法人を設立する前からパートナー作り、保守サービス体制の確立等を進めていました。日本法人設立後、大手銀行・証券会社やネット証券など、金融業界を中心に導入が加速しています。特に昨年からはVMware、Xenなどのサーバ仮想化技術が注目されはじめたこともあって、引き合いが増加してきており、業績も急拡大してきています。

——ハイパーバイザー等他の仮想化技術と比べ、どのような点に特徴があるとお考えですか。

大木 サーバだけではなくLAN、SANを含むデータセンター基盤全体を仮想化することで、オンデマンド・ユーティリティコンピューティング環境をBladeFrame上で実現で



イージェネラ(株)
代表取締役社長 大木 稔氏

きるという点です。米ガートナーのレポートでも「I/Oをすべて仮想化するという他に類がない設計思想で、直接比較できるシステムはない」と評されています。

テレコム、公共等の社会インフラ向けのビジネスに注力

——今後の日本市場でのビジネス展開の抱負をお聞かせください。

大木 銀行・証券・クレジット等、金融業界での市場拡大を図るとともに、特にテレコム、公共等の社会インフラを担うシステムで弊社製品をご利用いただけるよう注力していきたいと考えています。今年中には、少なくとも金融業界以外の売上げ比率を50%まで高めたいと思います。